

相模原マンドリン倶楽部第17回定期演奏会

Mandolin Concert



2000年5月20日(土) 午後2:00開演

グリーンホール相模大野大ホール

Program

〔I 部〕

指揮／宮本 皓永

歌劇「ザンパ」序曲 Ferdinand Herald
編曲：赤城 淳

皇帝円舞曲 Johann Strauss II
編曲：宮本 皓永

マンドリンオーケストラの為の「じょんがら」 藤掛 廣幸

〔II 部〕

指揮／小林 淳子

交響的前奏曲 Ugo Bottacchiari

小さなセレナーデ Vincenzo Billi

優雅な半仮面の乙女たち Carmelo Colletta

スラブ行進曲 Peter Tchaikowsky
編曲：飯塚 幹夫

【曲目紹介】

歌劇「ザンパ」序曲

Ferdinand Herold (1791~1833)

「ザンパ」とは歌劇の主人公・海賊の頭領の名前で、舞台は16世紀のシチリア島です。海賊ザンパと商人の娘カミラ、その許嫁アルフォンゾを中心に繰り広げられる騒動劇です。アルザスで生まれた作曲家エロールは、喜歌劇「バクダッドの酋長」などを作曲したボワルデュエと一緒に仕事をした時期もあり、その作風は後継者とまでいわれていました。彼は「ザンパ」と「聖職者たちの小牧場」の2曲で、フランス・オペラ史に小さいながらも名を残しています。

この序曲は、接続曲風になっています。旋律は親しみ易く華やかに色彩的に強く始まり、展開風に過ぎてゆき、速度は次第に増し、曲は華麗に劇的な迫力をもちながら終わりを告げるという、目先がつぎつぎと変化しておもしろい曲になっています。

皇帝円舞曲

Johann Strauss II (1825~1899)

「ウィーンの森の物語」「美しき青きドナウ」など数々のワルツ曲で私たちを楽しませてくれていたシュトラウス2世の後期(1888)の作品です。オーストラリア皇帝フランツ・ヨーゼフ在位40年祝典のために作曲され、祝賀大夜会のときに演奏されたそうです。

父の名もヨハンといます。作品では「ラデッキー行進曲」が有名です。父はダンス楽団を持ち作曲や演奏で人気を得ていました。後に欧州各地へ演奏旅行に出かけ1845年からウィーン宮廷舞踏会の音楽指揮を受け持ちました。

1844年息子のヨハンは父の反対を押し切って銀行員を辞め、自分の楽団を持ち演奏活動を始めます。自作は勿論のこと父の作品も演奏して大好評だったので以後父も容認、安心して作曲や演奏活動に専念、多くの作品を世に送り出しています。昨年はウィーンのニューイヤーコンサートを幕開けに致100年として彼の作品を耳にする機会が多くありました。

曲は序奏部、四つのワルツ、そして終結部の六つの部分からなっています。まだ踊りの始まらない、16歳のデビュータント達がエスコートされてホールに入ってくるような雰囲気導入部に続いて、ゆったりとした流れから、耳馴染みの旋律が次々と奏され、コーダではそれらが再現されたあと力強く終わります。

マンドリンオーケストラの為の「じょんがら」

藤掛廣幸 (1949~)

1783年(天明3)6月8日アイスランドのラキ山が噴火、偏西風に乗って膨大な噴煙は青い霧のかたちをとった塵となって北半球をスッポリと包み込みました。その青い霧が日本の上空に漂いはじめて間もない6月25日、浅間山が火を噴きました。山の東側、軽井沢はもちろんのこと遠く高崎あたりまで灰が降りそそぐなか浅間は静まらず7月17日には再び大爆発を起こし噴煙は風に乗って東へ東へと流れていったのです。

陸奥では7月に入っても冷たい風の吹く雨模様の日々が続いていました。「雨年に豊作なく、早魃に不作なし」といわれているように人々はその年の収穫を不安に思っていたのです。そこへ大噴火の影響がやってきました。灰や塵が上空に漂い日照不足が大凶を呼んで起きた、世に言う天明の大飢饉です。それをきっかけに江戸では田沼意次政権が崩壊し、同じようにフランスではパンもなく飢えた民衆が蜂起して革命が成功しました。

津軽の飢えた農民たちは食べるものもなく売るものもなく女子の身売りや口減らしをする家々があつとをたちません。津軽旧記類に「在町浦々、道路死人山のごとく目も当てられぬ風情にて」とあります。三味線を小脇に門付けて飢えをしのぐ人も少なくなかったのでしょう。

津軽三味線。その太棹から叫ぶように呻くように、時には囁くような津軽の響きが、聴く人の心を揺さぶるのも、そんな背景があったからなのでしょう。その魂の叫び「津軽じょんがら節」を見事にマンドリン音楽として完成させたのがこの作品です。(1977年6月)

藤掛氏は第1回全日本マンドリン作曲コンクール(1975年)で「パストラルファンタジー」が第2位に選ばれております。ちなみに1位は該当作品なしでした。作曲したマンドリン音楽は50数曲におよび、その活躍は交響曲、オペラ、室内楽曲、合唱、吹奏楽等々あらゆるジャンルにまたがり、現在も作曲やシンセサイザーによる演奏活動を続けております。

[文責 宮本皓永]

交響的前奏曲

Ugo Bottacchiari (1879~1944)

ボッタキアリは1879年3月10日イタリアマチェラータのカステルライモンドに生まれました。マチェラータの工業大学で学んだ後、ペザロのロッシェニ音楽院でピエトロ、マスカーニの教えを受け、卒業後は作曲活動に専念、1899年歌劇「影」の成功後、声楽曲、ピアノ曲、管弦楽曲、吹奏楽曲等、多数の作品を発表しました。後、吹奏楽団の指揮者、パチーナ音楽院の教授として後進の指導にもあたりました。

マンドリン作品は約40曲発表されていて、「夢の魅惑」「誓い」「夢うつつ」など主に夢想的、霊的な内容のものが多く、彼が心に抱く純粋性やロマンティズムを描写していると思われます。

本曲は1915年に発表され、ボッタキアリの作品の中では最も親しまれています。和音の美しい響き、ドラマティックな要素を含んだ感情の高まりは、弾く者をも魅了する傑作です。

小さなセレナーデ

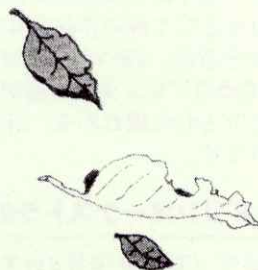
Vincenzo Billi (1869~1938)

ビルリは1869年4月4日イタリアラヴェンナのブリジゲッラ（ポーニアの東アドリア海側）に生まれ、1938年12月20日フィレンツェにて逝去した指揮者で作曲家。父ジュゼッペ（ウルバニア並びにペザロの音楽学校の指揮者で1903年ウルバニアにて亡くなりました）から最初フルートを学び、後にピアノ、作曲を学びました。ペザロのロッシェニ高等音楽学校を卒業後、フランス、スペイン、オランダ、イギリス等で指揮者として活躍。オペラ、オペレッタ等たくさんの作品があります。



優雅な半仮面の乙女たち Carmelo Coletta (1885~1960)

作者のカルメロ・コレッタは、1885年にシチリア島の東南端の町パキーノに生まれ、1960年に同島の東北端のメッシーナ市で亡くなりました。ギタリスト、作曲家、ピアノと和声楽の先生、吹奏楽の長としての資格も持ち、1921年からはスイスのス楽誌「Mandolinismo」の編集責任者になりました。本曲は、ミラノのアレッサンドロ ヴィッツァーリ社主に捧げられ同社から1924年に出版されました。



スラブ行進曲

Peter Tschaiowsky (1840~1893)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキーは、交響曲、バレエ音楽の作曲家としてロシアを代表する音楽家です。スケールの大きな作品ばかりでなく、歌曲をはじめ室内楽曲などあらゆるジャンルにわたって、多くの人々の心をつかみ、広く親しまれる作品を多数残しています。管弦楽曲でも「スラブ行進曲」や大序曲「1812年」はもっとも通俗的な作品とされています。

本曲が発表された1876年は、ロシアの戦史に残る年です。当時のオスマン帝国（トルコ）の压制下にあったバルカンのブルガリアに暴動が起こり、それに端を発してバルカン諸民族の独立運動が激しくなり、セルビアとトルコの戦争となりました。同じスラブ民族に属するロシア人の同情は深く、ロシアはセルビアに義勇軍を送りました。

この時、負傷兵を救援するスラブ慈善委員会のために大音楽会が催されることになり、作曲を依頼されたのがチャイコフスキーでした。

1876年11月5日、「スラブ行進曲」のモスクワでの初演は愛国的熱狂の嵐を巻き起こし、演奏終了後全聴衆は立ち上がり、ブラボーの叫びが絶えず、アンコールで再演をするほかなかったほどの大成功であったと伝えられています。

[文責 小林淳子]

マンドリン、腕はさて置き良き友が私の財産です
 楽器より、ビールが年々ウマくなる。ごめんね。
 セロ弾き正は激情家。感動なければ生きられぬ。
 表現できない時は、顔で弾いている気分を出すの
 マンドリン 弾けるしあわせ かみしめて
 音楽と楽友の協力で支えられました。ありがとう
 マイナーなマンドリン音楽でメジャーなひびきを
 栃木からの長旅も疲れをとばす仲間の音色
 合奏歴二×年、何回舞台に立つても緊張します！
 たくさんのありがとうを込めて大切に演奏します
 ミスしても舌も出さず知らぬ顔。成長したなあ。
 いつも皆に不安を与えるギターパート今年こそは
 一にも二にも練習。苦しいけれど大好きな倶楽部
 嬉しさと緊張の本番だ。さあ、落付いて。深呼吸
 自分の人生に音楽があつてよかった。
 マンドリンギターの和で話と輪が育ちこれ真理!!
 緊張の連続でスラブを練習し今日の胸のときめき
 今日もワルツのリズムにのつてリフレッシュ
 一年間かけても未完成。辛い辛い道程だったな。
 脳細胞死滅を早める嗜好酒、防止を図る指運動。
 感動を得、与えられる演奏をめざし、今日も又。
 音の輪の中で存分に楽しんでます。
 風光る皐月再び巡り来て 友と奏でる舞台染しむ
 倶楽部・苦楽部・・・大変だから楽しいのかも。
 スラブ、最後の処、本番でしつかり弾けるかな。
 指の位置を覚えるのに精一杯の日々でした。

寺田 窪田 飯田 井上 戸田 濱地 大矢 金澤慶 原田 小林 池田 宮本紀 渡辺 長澤直 池上 宮本皓 藍澤 綾部 加登 福谷 山崎 笛木 鈴木 石本久 石本友 野沢

一人一言

聴いてる皆様も弾いてる私も楽しいですよきつと
 愛犬の散歩とマンドリンは毎日?!を心掛けてます
 家族のみんなに、ご免なさいとありがとうを
 もまれ続け四年間果たして弾けるかスラブのラスト
 家族が元気で幸せでこそ合奏も楽しめるんですね
 偉大なトップ不在の二ヶ月、留守番は四苦八苦。
 合奏の中にいるだけで楽しい。弾ければもつと…
 じよんがらのリズムのとり方に苦労しました。
 張りつめた緊張感の中で演奏するのがとても好き
 多摩川を渡つて来てます。でも遠いなあ…実感!
 亡き母の一言で始めて、はや三十余年の相模原
 心に届く音楽を、と願いつつ早や本番!!
 ギターは私の宝、恋人、練習練習苦にならず!!
 ギターは楽しく、合奏は心のいやしです。
 演奏会、私の楽器はアンプ付、出ます出しますガ
 演奏会、出来はどうあれ、終われば打ち上げ。
 定演の心配いつも、引けない所と衣裳のサイズ
 低音の威?力・魅?力を発揮出来るか…さあ大変
 速い!指が!! まだまだ未熟な私です。
 家事のあい間のマンドリン、私の至福のひとつ
 前回の定演は客席で感動し今回は舞台上で演奏感激
 マンドリンの音色は私を優しく包んでくれます。
 新入部第17回定演はステージ上より失礼します。
 ミレニアム新しい自分捜しふと人には添うてみよ
 三十年振りに手にしたチェロ、気はあせるばかり

市川 舟田 金澤葉 宮下 木田 田中 饗庭 峯田 仁尾 本田 川崎 長沢久 新田 柳生 古田 安藤安 安藤恵 錦戸 吉野 藤枝 樋口 城戸 森 大熊 中井

(以上出演部員51名全員)

《 出 演 者 》

Conductor	小林 淳子	宮本 皓永				
1st Mandolin	窪田 成子 濱地すぎの 渡辺 礼子	川崎 紘子 樋口 忠雄	戸田 節子 舟田 徳穂	仁尾 真里 木田 絹子	野沢 孝広 山崎 了三	
2nd Mandolin	池田百合子 石本 友子 古田 栄治	藍澤 桃子 大矢 利夫 本田 博子	饗庭 裕子 城戸かほる 吉野 昌重	綾部 文子 福谷 隆治	安藤 恵子 藤枝 春代	
Mandola Tenore	井上 昌子 峯田 福代	大熊 友子 宮下 和子	寺田美千代 森 順子	長澤 直子	笛木 和美	
Mondolon Cello	飯田 正男 中井 顕成	安藤 安臣 錦戸 民子	市川久美子	金澤 葉子	小林 淳子	
Guitar	宮本 紀子 長沢 久美	池上 由子 新田美佐子	石本 久博 原田 治	加登 文子 柳生 秀人	田中 厚子	
Mondolone	宮本 皓永					
Contra Bass	金澤 慶了	鈴木 保彦				
Percussion	秋葉久美子(賛助)	富田 篤(賛助)				
				アナウンス	大矢 和子(賛助)	
				ステージマネージャー	喜多 宗和(賛助)	

《 クラブ紹介 》

1975年4月に相模原青少年会館のマンドリン教室として発足し、1977年3月に相模原マンドリン倶楽部として第1回定期演奏会を開催しました。演奏面も運営面も部員が総力をあげて組織的に取り組み、自らの手で作りあげるクラブとして成長しました。

マンドリン・オリジナルとクラシック・アレンジを中心に演奏し、50人規模のマンドリン・オーケストラとして相模原を拠点とした活動に加えて県内外でも活動を続けています。

《 活動レポート 》

1998年11月22日(日)	第16回定期演奏会 (相模原市グリーンホール相模大野)
1999年 4月25日(日)	神奈川マンドリンフェスティバル (横浜市栄区栄公会堂)
8月 7日(土)	サマーコンサート (相模原市サン・エールさがみはら)
10月16日(土)	足利合宿 (栃木県足利市巨石荘)
~17日(日)	足利市民音楽祭 (足利市足利プラザ文化ホール・19名参加)
2000年 4月23日(日)	神奈川マンドリンフェスティバル (横浜市栄区栄公会堂)
5月13日(土)	第17回定期演奏会に向けて合宿 (厚木市飯山UJ研修センター)
~14日(日)	
11月18日(土)	オータムコンサート (予定) (相模原市サン・エールさがみはら)

相模原マンドリン倶楽部連絡先

飯田正男

宮本皓永